

令和5年度7月13日(木)音楽科公開レッスン(ピアノ)を実施

～♪ 三船優子先生(ピアニスト、京都市立芸術大学教授)をお招きしました!! ♪～



一人目のレッスン曲はベートーヴェン作曲のピアノソナタ第18番 第1楽章 でした。

古典派であることから、楽譜に書いてあることに忠実に演奏することを大切にしていることがとても伝わってきました。ベートーヴェンの厚い演奏を忠実に再現するのは難しいですが、音の方向性や強弱を計算しながら演奏すると良いことを勉強し、音がどこに向かっているのかを考えて弾きたいと思いました。(生徒の感想より)

二人目のレッスン曲は、ショパン作曲の練習曲 Op.10-1, Op.10-8 とラフマニノフ作曲楽興の時 Op.16-2

自分がどのように演奏したいかと作曲家の特徴を合わせて、すべての音を中身のあるものすることで心地の良い、人の心に届くものとなることを学びました。

また、音と音の間の空気についても学び、音が空間に向かって上がっていくことが実感できました。三船先生の一言で意識が変わり、演奏も一変しました。

(生徒の感想より)



その後の質疑応答では、1年から3年までのピアノ専攻生徒がたくさん、積極的に先生に日ごろの練習やピアノへの向き合い方、演奏上での悩みなどを質問し、三船先生も、質問した生徒の側まで行って丁寧に答えてくださいました。そのアドバイスが的確で、多くの生徒が先生との時間に引き込まれていきました。



最後に、先生は演奏をしてくださいました。曲は、ラフマニノフ作曲の前奏曲 Op3-2「鐘」でした。一つ一つの音の方向性を考えたりや音が空間の上に向かって響いていく意識で音を出すことや人に思いが伝わる音楽をといった今日のレッスンを身をもって示してくれている、そんな説得力のあるスケールの大きな演奏で、心に鐘の音のようなピアノの音が響き、沁みわたりました。

最後の演奏では、音楽にまるで命を吹き込んでいるかのような演奏に圧倒されました。先生がアドバイスされていた一つ一つの音の意思が綺麗に伝わってきて本当に素晴らしかったです。あの力強い説得力のある演奏に対して、嫌にならない音楽の美しさが聞こえてきて、自分もそんな音が出せたらと思います。(生徒の感想より)



♪ ピアノ専攻以外の生徒にも勉強になりました。～生徒の感想より～♪

★音の方向性や一つ一つの音への考え方など管楽器に活かすことができるようなアドバイスを聴くことができるととても勉強になりました。また、楽譜から物語を作るというお話では、新しい音楽の歌い方や作り方を知ることができ、これからの自分の演奏に応用していきたいと思いました。

★私は声楽専攻なのですが、声の響かせ方とピアノの音の響かせ方は今日のお話を聞いて似ていると感じました。音を上に響かせるイメージが声を出すときと何だか同じような感じがしたので、そこを考えながら、演奏してみたいと思いました。声楽とピアノは違うものだけど、共通点を見つけてそれぞれの演奏に活かすことができると、他にどんな共通点があるのかな？と考えれば考えるほど、音楽ってやっぱり楽しいなと思いました。

★私は声楽専攻なのですが、「もっと歌うように演奏して」「もっと気持ちを込めて」と言われることがあります。歌詞の意味や単語の意味を調べてある程度、作曲者の気持ちを汲み取ろうとするのですが、なかなかうまくいきませんでした。先生がお話しされていた「何か物語を読んでいる時を演奏でイメージする」ということが声楽でも同じなのかなと思いました。